

ひぎんこくぶんじあと
備前国分寺跡

りょうぐうさんこふん
両宮山古墳

しせき 史跡だより 第9号

赤磐市制施行 10 周年記念事業史跡シンポジウム

両宮山古墳とその時代を開催しました



両宮山古墳をめぐる謎について、最新の研究成果から迫る！

8月22日に、赤磐市立中央公民館において、赤磐市制施行10周年を記念して、史跡シンポジウム「両宮山古墳とその時代」を開催しました。

昨年度の発掘調査で、本来ならばそなわっているはずの葺石や埴輪が両宮山古墳にはないことが確実になり（史跡だより第8号参照）、ますます謎は深まるばかりです。今回のシンポジウムではその謎に迫ろうと、それぞれの分野の第一線でご活躍の先生方に、最新の研究成果をふまえ、両宮山古墳の解明に挑戦していただきました。

当日は、会場がほぼ満席となり熱気に包まれました。会場からいただいた質問もこれまでになく多く、みなさんの関心の深さが分かりました。

赤磐市教育委員会 平成27年10月10日発行

〒709-0816 赤磐市下市337番地 電話：086-955-0710

URL：<http://bunkazai.akaiwa-rekishi.jp/>

両宮山古墳をめぐる様々な謎については、シンポジウム第2部におけるパネルディスカッションで、亀田修一先生（岡山理科大学）のコーディネートにより、活発な議論が行われました。ここに、その一部を紹介します。



コーディネーター
亀田修一先生（岡山理科大学）

Q：両宮山古墳は、これだけ巨大な前方後円墳でありながら、葺石もなく、埴輪もなく、未完成の古墳だという説があります。また、日本書紀には吉備勢力がこの時期（5世紀後半）に倭王権^{わおうけん}に対し反乱をくだてたとありますが、みなさんはどのように考えますか。

反乱があったかどうかはとにかく、この時期には吉備と共に葛城・紀伊の勢力が一斉に衰退していきます。倭王権の地域支配が進むことと連動しているのではないのでしょうか。



宇垣匡雅先生
（岡山県古代吉備文化財センター）

両宮山古墳が未完成の可能性は高いと思いますが、これを反乱伝承と結びつけるのは、さらなる議論と検証が必要だと思います。



古市晃先生（神戸大学）

大阪にある河内大塚山古墳は、全長が300mを超える大型の前方後円墳ですが、埴輪と葺石がないことから、両宮山古墳と同じく未完成説があります。この古墳の被葬者は、当時の政変に巻き込まれた人物の墓ではないかという説があります。



林正憲先生
（奈良文化財研究所）

お知らせ

「赤磐の王墓」山陽郷土資料館企画展開催中！

中央公民館の東隣にある山陽郷土資料館では、毎年秋に企画展を開催しています。今年度は、先に紹介したシンポジウムと関連し、両宮山古墳をはじめ、市内に造られた「王墓」に迫ります。

企画展では、弥生・古墳時代にこの地域を治めていた「王」の墓からの出土品（銅鏡や特殊器台など）を展示しています。これらの展示品を見ながら、「赤磐の王」について一緒に考えてみませんか。みなさんのお越しをお待ちいたしております。

期 間：平成27年10月10日（土）～12月10日（木）
9：00～17：00（入館16：30まで）月曜・祝日休館
お問い合わせ：山陽郷土資料館 電話：086-955-0710



用木1号墳(赤磐市山陽)出土銅鏡